

特118

33

帝都復興論

佐々木鉄之助編

国立国会図書館



始



帝都復興論

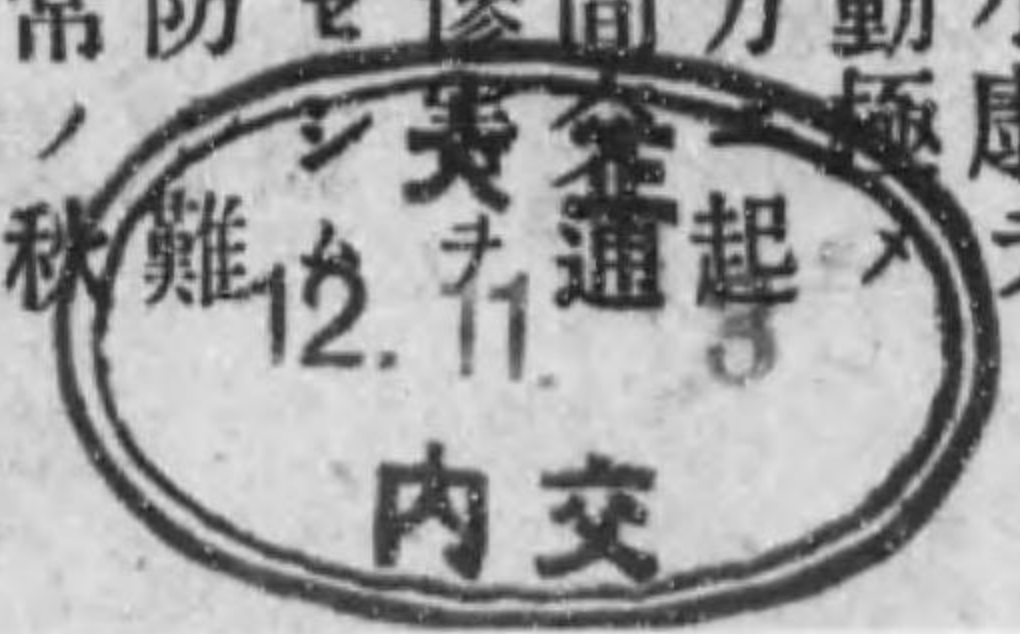


帝 昭 勅 與 節



詔書

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝アル國史ノ成跡ニ鑑ミ皇考中興ノ宏
 謨ヲ繼承シテ肯テ愆ヲサラム事ヲ庶幾シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ
 祖宗ノ神佑ト國民ノ協力トニ賴リ世界空然ノ大戰ニ處シ尙克ク小康ヲ
 保ツテ得タリ奚ソ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ起リ其ノ震動極メ
 テ峻烈ニシテ家屋ノ潰倒男女ノ慘死幾萬ナルヲ知ス剩ヘ火災四方ニ起
 リテ炎焰天ニ冲リ京濱ソノ他ノ市邑一夜ニシテ焦土ト化ス此ノ間交通
 機關杜絶シ爲メニ流言蜚語盛ニ傳ハリ人心恟々トシテ倍々其ノ慘狀
 大ナラシム之ヲ安政當時ノ震災ニ較フレハ寧ロ凄慘ナルヲ想起セシム
 朕深ク自ラ戒慎シテ己マサルモ惟フニ天災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難
 ク只速カニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルノ一途アルニ凡ソ非常ノ秋
 ニ際シテ非常ノ果斷ナカルヘカラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠柱シテ活
 用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜ヲ失シテ前後ヲ誤リ或ハ個人若クハ一
 會社ノ利益保障ノ爲ニ多衆災民ノ安個ヲ脅カスカ如キコトアラハ人心
 動搖シテ底止スル處ヲ知ラス朕深ク之ヲ憂惕シ既ニ在朝有司ニ命シ臨
 機救濟ノ道ヲ講セシメ先ス焦眉ノ急ヲ極メテ以テ惠撫慈養ノ實ヲ舉ケ



ノト欲ス
抑モ東京ハ帝國ノ首部ニシテ政治經濟ノ樞軸トナリ國民文化ノ源泉ト
ナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今ヤ其舊形
ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タルノ位置ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後
策ヲ回復スルニ止マラス進ンテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新
ニセサルヘカラス惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其ノ慶ニ
頼ラムコトヲ切望スヘシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關ヲ
設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問
ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬違算ナキヲ期セムトス
在朝有司能ク朕力心ヲ心トシ迅ニ災民救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ
民心ヲ安定シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ冀ケテ奉公ノ誠悃ヲ致シ以
テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕萬古無比ノ天殄ニ際會シテ郵民ノ心愈々切ニ
寢食爲ニ安カラス爾臣民其レ克ク朕力意ヲ體セヨ

御名 御璽
攝政 名

大正十二年九月十二日

各 大臣 副 署

國 難

明治維新以來五十六年、大帝崩ジテ茲ニ十餘年、昌平久シクシテ驕奢
侈靡人心、皆倦ム、常ニ舍兄ト語り、秘カニ天殃ノ臻ラザランカヲ恐ル
果セル哉、大正十二年九月一日、關東ノ大地震、就中東京、橫濱、橫須賀
震災ニ次デ火災ヲ起シ、帝都ノ主要都ヲ灰燼シ、橫濱ハ焦土ト化セリ
橫須賀又壞損ス、古今東西未曾有ノ大災害ニシテ、死傷者實ニ數十萬
人、財寶幾十億。
遊澤榮一氏ハ、之レヲ天譴トシテ畏縮スルモノナリト稱ス、善哉此語。
洵ニ肝銘スベシ、此國難ニ當リテ舉國一致以テ大東京ノ再興建設ニ努
カスベキノ秋也。
獨リ戰爭而已國難ト云フベカラズ、這災ヤ戰爭以上ノ國難ト稱ス可シ。

辭

前代未聞ノ大震災ニ當リテ、人心歸趨セズ、動搖ハ不安ヲ生ジ、不安

ハ帝都復興ノ大障礙ノ基ヲ成ス、余今急遂私議ヲ述ベテ活刊ニ附ス

大正十二年九月十三日

著者

本論 (一)

一帝都復興ノ準備トシテ、緊要ナルハ交通輸送ノ完備ヲ、最モ急ヲ要スルモノトナス也。

政黨擴張關係等ニテ、不用不急ナル目下工事中又ハ計畫ノ鐵道ハ延期スベシ、而シテ急速ニ大宮ヨリ高崎線迄ノ複線ヲ布設スベシ、又中央線ハ八王子迄ノ複線ヲ急設スベシ、又小田原急行鐵道株式會社ヲ援助シテ大急速ニ完成セシムベシ大宮川越間ノ鐵道ヲ政府管理ノモノトナシ、輸送上統一ヲ圖リ、猶ホ川越國分寺間ノ鐵道ト共ニ之レ又複線ヲ布設スベシ

八王子神奈川間モ又急速複線ノ計畫ヲ立ツベシ、此ノ如クシテ、帝都

ニ入ル片方ノ交通運輸ヲ、自由自在ニ活動セシムルノ策ヲトルベキ也。

東方ノ交通ニ臻リテハ、河川アリ溝渠アリ、海灣アリテ、比較的水運發達便利ナレバ、運河等ノ設備ヲ要スルモノアリト雖モ、未ダ急速ノ準備ヲ要セザル也。

以上述ベ來ル交通網ノ完成ハ、急務中ノ急務也、之レヲ帝都復興ノ第一義也トス。

本論 (二)

一、新都ハ世界一タラシメ、興國新日本ノ帝都タルニ愧ヂザル面目ニ再興セザルベカラズ。

新興國日本ノ帝都、一朝ニシテ灰燼ニ化ス、悲慘ノ極ト云フベシ、舊都ハ五百年ノ歴史ヲ有スルト共ニ、其ノ形骸在シタルナルモ、新建設ニハ、現代ノ最モ進歩セル世界最善ノ智識ヲ求メテ計畫ヲ策スベキ

ナリ、徒ニ急速ヲ望ミテ、所謂イ、カゲンノ事ヲナスヘカラズ、大建設ニハ長時日ヲ要スルハ勿論ナリ、當局ハ充分考策シテ、萬金ノ途ヲ探ラザルベカラズ。

余は想フ、少ナクモ輪廓ノ計畫ニ三ケ年ヲ要スベシ、準備ニ七ケ年ヲ要スヘシ、而シテ築造ニ十五ケ年通シテ二十五ケ年、初メテ東洋ノ一局ニ、世界一ノ新面目ノ大帝都ノ出現サルコモノト、斯クシテ國威隆

々タル日本ト共ニ新帝市ノ光彩陸離タルモノアリ。徒ラニ皮相觀者ニ雷同シ、急造說ニ顧慮スベカラズ、此ノ邊復興ノ審議會又ハ當然建設サルベキ、復興院ノ慎重ノ考慮ヲ要スル所ナリ、之レヲ第二義トス。

本論 (三)

三、横濱港復興ハ、帝都復興ト共ニスベシ。

帝都ハ附近ニ大良港灣ナカルベカラズ、横濱市街ハ全滅セルモ、港灣

損所ナシ東京灣内横濱ヲ除キテ良港灣ナシ、帝都計畫ノ衝ニ當ルモノ、又港ノ復興ヲ共ニ計ラザル可ラズ、此ノ間ニ緩急前後アルベカラズ、而シテ最モ進歩シタル帝都市ト、良港灣トノ連絡ニ細心注意ヲ拂フベシ、若シ帝都ノミニカラ盡シ、港灣ヲ蔑ニスルガ如キ事アラバ帝都ハ一翼ヲ失ヒタルモノニシテ、即チ跛ノ帝都タルナリ、新興國ノ大帝都市計畫者ノ、此ノ邊ノ考慮ヲ失却スル能ハザルナリ、之レ帝都復興ノ第三義也。

本論 (四)

四、帝都復興ニハ、一院ヲ創置ス可シ

即チ帝都復興ノ總テヲ管スル公衙也、之レハ國家行政機關ニアラス、故ニ現今ノ内閣外ニ立テテ、専心復興事業ヲ主トスルモノナラザル可カラズ、大ノ費用ト時日ト、萬人ノ智識トヲ要スル事勿論也、主屬ハ内閣ノ首班者ヲ以テスルモ、異議ナケン、然レモ、之ノ院ハ

全ク獨立セシメザル可カラズ、然ラザレバ、復興ノ實決シテ舉ガル可キモノニアラス、殆ンド事毎ニ齟齬遷延スル也、之レ帝都復興者ノ考慮ヲ要スヘキ第四義ナリトス。

本論 (五)

五、淺草觀音堂ヲ中心トシテ、最初ニ之ノ附近ノ大都市街區計畫ヲ發表スベシ。

夫レ今回ノ大震災ニテ東京二百萬ノ市民、焦熱地獄ノ中ニ彷徨シ、一旬ヲ經テ去住未ダ定マラズ、人心荒ミ切りタル此時ニ於テハ衣食住生活以外ニ、何物カノ慰安ヲ求ムルハ當然ナルモノトス、而モ只一ノ歡樂境ヲ失シタルニ於テチャ。

火焰猛々タル内ニアリテ嚴然急難ヲ脱シタル奇蹟觀音堂、何人カ靈驗ニ隨喜セザルモノアランヤ、是レ人間ノ本性ナリ、之ノ人心歸向スル處ノ機微ヲ採ヘテ、帝都復興ノ基礎中ニ置ク、之レヲ第五義

トナスナリ。

以上列述セル五義ハ、帝都復興ニ關シテ主要骨子ナリトス、此心ヲ以テ當局努力奮勵スルニ於テハ、聖旨ニ叶ヒタル新帝都ノ復興期シテ俟ツベキ也。

中論

一、新帝都市街ノ計劃ハ、皇城ヲ都市ノ基準トシ、燒盡セル街區ニ理想道路ヲ開鑿區劃シ、放射的循環的ナラザル可カラス、即チ東京驛ヲ中心トシテ計畫スベシ而シテ漫リニ堀及ビ溝渠ヲ埋設セシム可カラズ。

二、東京灣築港ハ無用也、此費用ヲ以テ京濱運河ヲ築成セヨ。

小論

- 一、皇城ヲ中心ニ四方ニ郡市境界迄ノ大道路ヲ作ル可シ、常時ハ大交通路ニシテ、以テ大防火線又ハ炎害避難所ノ用意タルヘシ、品川ヨリ上野公園ニ達スル大道路ノ如キハ無論ノ事トス。
- 二、吉原州崎ハ再興スベキモノナリ。
- 三、木造建築ノ制限ヲ、余リニ嚴ナラシム可カラス。
- 四、秋葉原停車場附近、砲兵工廠附近ヲ大公園敷地トスベシ。

餘論

一、本所被服廠跡ニハ、大震災塚ヲ作ル可シ、而シテ、毎年九月一日大法要ヲ營ミ、東京ノ年中行事タラシム可シ、之レ番都永劫ノ戒箴ナリ。

帝都復興審議會委員

九月十九日任命發表

- | | | |
|----------|----------|---------------|
| 總裁內閣總理大臣 | 伯爵 山本權兵衛 | 子爵 江木 千之 |
| 外務大臣 | 男爵 伊集院彦吉 | 子爵 澁澤 榮一 |
| 內務大臣 | 子爵 後藤 新平 | 市來 乙彦 |
| 大藏大臣 | 井上準之助 | 和田 豊治 |
| 陸軍大臣 | 男爵 田中 義一 | 子爵 青木 信光 |
| 海軍大臣 | 財部 彪 | 大石 正巳 |
| 司法大臣 | 平沼騏一郎 | 帝都復興審議會委員被仰付 |
| 文部大臣 | 岡部敬次郎 | 審議會委員子爵 後藤 新平 |
| 農商務大臣 | 男爵 田 健次郎 | 帝都復興審議會幹事長被仰付 |
| 逓信大臣 | 犬養 毅 | 塚本 清治 |
| 鐵道大臣 | 山之内 一夫 | 樺山 資英 |
| 子爵 高橋 是清 | | 松本 丞治 |
| 子爵 加藤 高明 | | 帝都復興審議會幹事被仰付 |
| 伯爵 伊東巳代治 | | |

山本首相訓示

九月廿一日ノ帝都復興審議會初會議ニ於ケル山本首相ノ訓示左ノ如シ
 帝都復興審議會設置サレ茲ニ其ノ開會ニ際シテ一言スルコトヲ得ルハ不肖ノ最モ光榮ト
 スル處ナリ今次ノ災害ニ當リ 天皇陛下ニハ深ク震慄ヲ惱マシ給ヒ 攝政宮殿下ニハ切ニ
 軫愛アラセラレ曩ニ内定ノ資ヲ賜ヒテ優渥ナル令旨ヲ降サセラレ近クハ又至慈ナル聖教ヲ
 發給フテ救護普ク至リ生業ノ途開ケ民心ノ安定一日モ速カナランコトヲ望マセラレ殊ニ帝
 都復興ノ議ヲ盡シテ興國ノ基ヲ固メンコトヲ命ジ給フ 聖旨懇篤恐懼ニ堪ヘズ今ヤ官制新
 タニ公布サレ幸ニ諸君ノ慎重審議ニ待ツテ此ノ事業ヲ遂行シ政治經濟ノ中樞ニシテ文化ノ
 源泉タル京都ヲ復興シテ國家ノ光輝ヲ彌々發揚シ以テ聖旨ニ對ヘ奉リ國民ノ重寄ニ副フ處
 アランコトヲ期ス此ノ際中外ノ同情義舉盛ンナルモノアルハ諸君ト共ニ均シク感銘ニ堪ヘ
 ザル處、極力罹災者ノ救護其宜シキヲ制シ進ンデ 災害ノ善後ヲ完了スルニ努ムルハ現下
 ノ急務ニシテ又實ニ此情誼ニ酬ユル所以也ト信ズ帝都復興計畫ヲ遂行スルニ就テハ全般ノ
 施設ヲ通ジテ實質ヲ主トシ外觀ヲ從トシ學理ト經驗トヲ應用シ且ツ歐米諸都市ノ現狀ヲ參
 酌シテ之レニ資シ以テ帝都ノ面目ヲ一新シ更ニ威容アルモノタラシメ之レガ事業ヲ進行ス
 ルニ當リテハ國力ト民度トニ順ミ序ニ順ヒ漸ヲ追フテ進ミ以テ國家經濟ノ調節ヲ失ハザラ
 シメンコトヲ期ス若シ夫レ各種具體案ニ至リテハ逐次之レヲ本會ニ提出スベキヲ以テ充分
 ノ審議ヲ盡サレンコトヲ望ム

哀悼

- 一 閑院宮寬子女王殿下 於小田原震薨
- 一 山階宮佐紀子女王殿下 於鎌倉震薨

子爵	京	極	高	義	於被服廠跡行衛不明
	相生	警察署長	同	燒	死
	園	田	孝	吉	於鎌倉震死
	磯	部	四	郎	於鎌倉震死
	佐々木	慎	四	郎	於茅ヶ崎震死
	今	福	忍		於藤澤震死
	堀田	正	恒	夫人	於北條震死

救恤

攝政宮殿下御沙汰

今回稀有ノ大地震東京及近縣ヲ襲ヒ然ノミナラズ大火相踵ギ損害甚ダ大ナルハ誠ニ國家生民ノ不幸ナリ余ハ其實狀ヲ見聞シテ日夜憂措ス殊ニ被害者ノ境遇ニ對シ心深ク是ヲ痛ム茲ニ内帑ヲ頒テ其苦痛ノ狀ヲ慰メントス官民ト共ニ共力シテ適時應急ノ措置ヲ爲シ以テ遺憾無キヲ期セヨ

金壹千萬圓御下賜

金五拾萬圓下賜 各宮家

- 金五百萬圓 岩崎男爵
- 金五百萬圓 三井家
- 金參百萬圓 安田家
- 金貳百五十萬圓 男爵 住友吉右衛門
- 金百萬圓 (物資ヲ以テ) 鈴木商店

金百萬圓 (四分利公債) 男爵 大倉喜八郎

- 金五拾萬圓 候爵 鴻池家
- 金參拾萬圓 候爵 鍋島直映
- 金參拾萬圓 公爵 嶋津重
- 金參拾萬圓 侯爵 毛津元昭
- 金參拾萬圓 公爵 前田利昭
- 金貳拾萬圓 侯爵 淺野長勳
- 金拾五萬圓 侯爵 島津忠親
- 金拾萬圓 侯爵 德川義親

大正十二年九月二十三日印刷
大正十二年九月二十七日發行

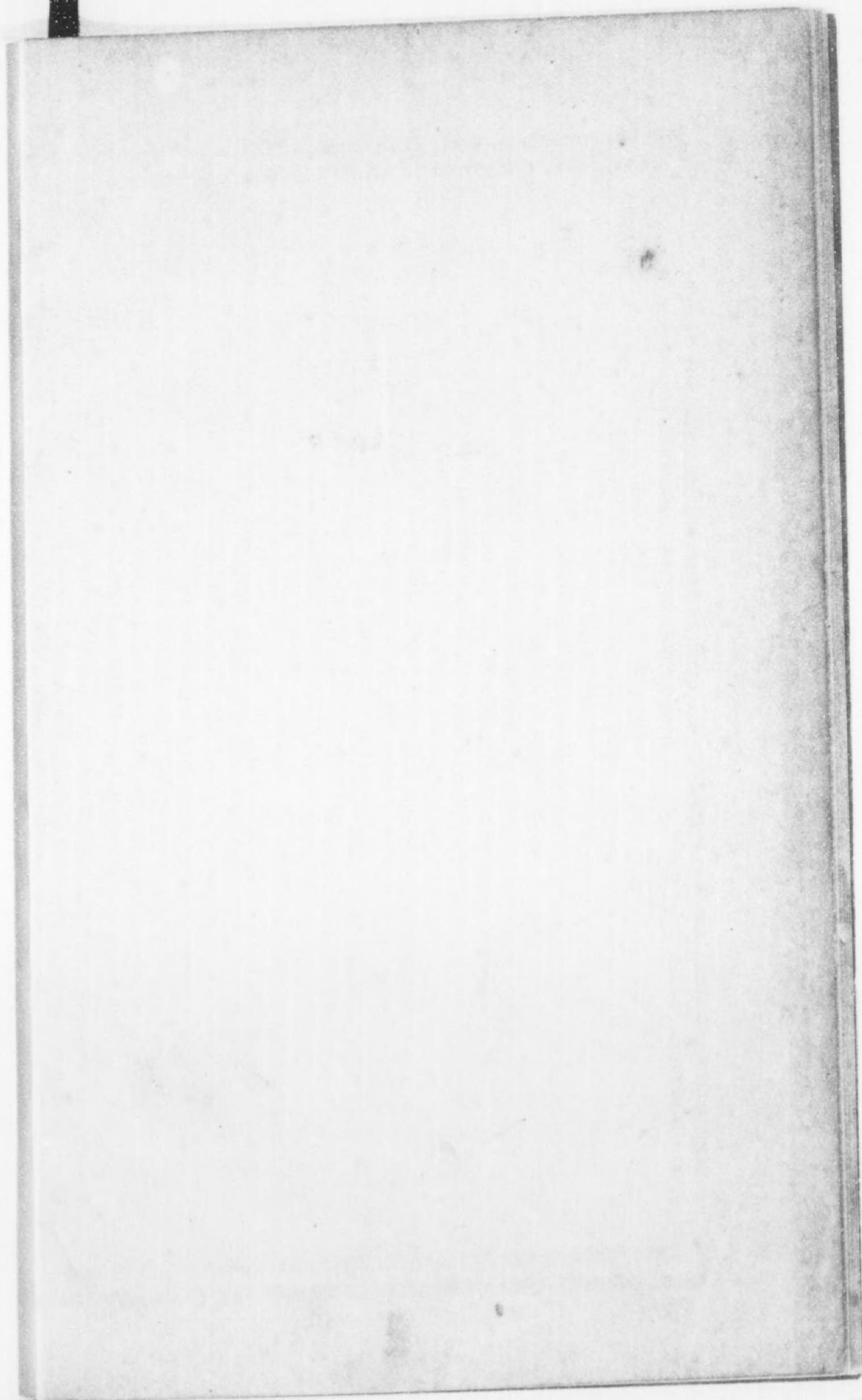
定價金五十錢

長野縣南佐久郡田口村大字下越四百貳拾八番地

發行兼編述者 佐々木鉄之助

長野縣南佐久郡白田町二二三番地

印刷所 白田活版所



終